

令和元年度 第12回 県政モニターアンケート調査結果

農政課 企画調整係
(099-286-3093)

○テーマ 食生活と食育について

○調査目的 県民の皆様の「食」に対する意識や食生活の実態を把握し、今後の食育等の推進に関する施策の参考とします。

※ 県では、県民の皆様の地産地消を基本とした健康で豊かな食生活の実現を図るため、平成28年3月に策定した「かごしまの“食”交流推進計画(第3次)」に基づき各般の取組を進めています。

○調査期間 令和2年1月

○調査対象 200人

○回答者数 154人(77%)

[注] 割合(%)は、選択者数÷回答者数(154人)×100で計算しています。

また、小数点第1位で四捨五入しており、その和は100%にならない場合があります。

○施策への活用予定

今回の調査結果を食育等の推進に関する取組に役立てます。また、「かごしまの“食”交流推進計画(第4次)」の策定にあたり参考にします。

問1 あなたは、食育に関心がありますか。

(全員:単数回答)

	人数(人)	割合(%)
1 関心がある	87	56%
2 どちらかといえば関心がある	62	40%
3 どちらかといえば関心がない	3	2%
4 関心がない	1	1%
5 分からない	1	1%

問2 あなたの食生活において、「食生活指針」をどれくらい実践できていますか。

(全員:各項目ごとに単数回答)

	①主食、主菜、副菜を基本にバランスのよい食事をしましょう		②ごはんなどの穀類をしっかりととりましょう		③食糧資源を大切に、無駄や廃棄の少ない食生活をおくりましょう	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1 実践できている	22	14%	79	51%	38	25%
2 おおむね実践できている	100	65%	60	39%	88	57%
3 あまり実践できていない	29	19%	15	10%	28	18%
4 全く実践できていない	3	2%	0	0%	0	0%

問3 あなたが、朝食、夕食を家族(の誰か)と一緒に食べる頻度はどのくらいありますか。

(全員:各項目ごとに単数回答)

	①朝食		②夕食	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1 ほとんど毎日食べる	83	54%	107	69%
2 週に4~5日食べる	8	5%	19	12%
3 週に2~3日食べる	18	12%	11	7%
4 週に1日食べる	12	8%	4	3%
5 ほとんど食べない	21	14%	1	1%
6 ひとり暮らしである	12	8%	12	8%

問4 あなたは、外食、中食をどのくらい利用しますか。

(全員:各項目ごとに単数回答)

	外食					
	①朝食		②昼食		③夕食	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1 ほとんど利用しない	139	90%	39	25%	33	21%
2 半年に2~5回	8	5%	23	15%	43	28%
3 月に1~3回	5	3%	61	40%	62	40%
4 週に1~2回	0	0%	18	12%	12	8%
5 週に3~4回	0	0%	8	5%	3	2%
6 ほとんど毎日	2	1%	4	3%	0	0%
7 未回答	0	0%	1	1%	1	1%

	中食					
	④朝食		⑤昼食		⑥夕食	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1 ほとんど利用しない	101	66%	25	16%	45	29%
2 半年に2~5回	7	5%	14	9%	27	18%
3 月に1~3回	21	14%	56	36%	44	29%
4 週に1~2回	11	7%	35	23%	31	20%
5 週に3~4回	8	5%	21	14%	5	3%
6 ほとんど毎日	5	3%	2	1%	1	1%
7 未回答	1	1%	1	1%	1	1%

問5 あなたは、食事や買い物等の際、意識して県内で生産された農林水産物を活用または購入していますか。

(全員:単数回答)	人数(人)	割合(%)
1 いつも意識している	49	32%
2 時々意識している	69	45%
3 あまり意識していない	27	18%
4 全く意識していない	4	3%
5 自分で活用・購入する機会がない (家族等が活用・購入している)	5	3%

問6 あなたは、郷土料理や伝統料理などの、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味つけ、箸(はし)づかいなどの食べ方(作法)について、何か受け継いでいますか。

(全員:単数回答)	人数(人)	割合(%)
1 受け継いでいる	90	58%
2 受け継いでいない	62	40%
3 未回答	2	1%

問7 あなたは、郷土料理や伝統料理などの、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味つけ、箸(はし)づかいなどの食べ方(作法)について、地域や次世代の若者(子どもやお孫さんを含む)に対して、何か伝えてありますか。

(全員:単数回答)	人数(人)	割合(%)
1 伝えている・伝えてきた	70	45%
2 伝えていない	83	54%
3 未回答	1	1%

問8 これまで、あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業体験(田植え、稲刈り、野菜の収穫など)に参加したことがある人はいますか。

(全員:単数回答)	人数(人)	割合(%)
1 いる	130	84%
2 いない	23	15%
3 未回答	1	1%

問9 問6から問8で、問6「2 受け継いでいない」、問7「2 伝えていない」、問8「2いない」とひとつでも答えた方にお聞きします。

機会があれば、郷土料理や作法を受け継ぎたい、または伝えたい、あるいは農林漁業体験に参加してみたいですか。また、どのような機会・内容であれば参加したいですか。

(全員:単数回答)	人数(人)	割合(%)
1 参加してみたい	50	32%
2 参加したくない	35	23%
3 未回答	69	45%

参加してみたい機会・内容(抜粋)

- ・ 郷土料理の作り方や作法
- ・ 郷土料理フェス(娘の今月の給食には、鹿児島フェアがある。一般でも利用できたら。)
- ・ 田植え、稲刈り、雑草取り
- ・ 野菜の作り方、収穫など
- ・ 漁業体験
- ・ 魚を捕ってきてからつけあげを作るまでの体験、けせん団子作り
- ・ 地元の農産物イベントや、野菜ソムリエ団体による伝統活動等を通し、フェス等で紹介してほしい
- ・ 郷土材料で、自分で料理したい。特に煮物、竹の子料理、団子、芋を使用したもの
- ・ 子どもと一緒に体験してみたい。ふくれがしやとんこつを使った料理など
- ・ 地域の方が行う料理教室
- ・ 子どもから高齢者まで幅広い世代の人が参加可能で、会食等を通じ交流しやすい行事
- ・ 地元でとれる物で、こんにやくいもで作るこんにやくや、野菜の漬物など、地域での研修
- ・ 包括センター地域サロン等にて、開催があれば

問10 県民の皆様の食への関心を高めたり、県産農林水産物の活用を進めるには、どのような取組が必要だと思いますか。(抜粋)

<行政>

- ・ あらゆる媒体を通じた情報発信につける。(マスコミ、ロコミ、etc.) イベント…
- ・ 食(食育)の重要性を改めて認識させる。(キャンペーン) 県産農林水産物の活用が、生産者や本県の経済にどれだけ貢献しているかを具体的に広報する。
- ・ 食生活は、一つ一つの家庭の意識が大切。推進計画(第3次)の数値目標は大変いい事。もう少し、具体的に出来たら、動きと狙いが少し明確になる。特に地産地消について。
- ・ 食事バランスガイドに基づいて、県民それぞれの食生活をスコア化・可視化することで、食に関する興味や意識を高められる。スコアをポイントに換算(例:健康な食生活を送ると普段の買い物で使えるクーポン付与)できると、多くの人がゲーム感覚で楽しめる。
- ・ 鹿児島は全国でも県産農林水産物に非常に恵まれている。このまま県の既存の活動を続けることが、今後の世代にも十分に関心を高めていく事ができる。
- ・ 民間業者(スーパー、飲食店など)との連携が必要。
- ・ 子どもがいるママは、食育に関心がある方が多い。小学生以上参加可のイベントはあるが、幼児参加可は限られる、又は、敷居が高い。興味はあるのに参加しにくいのはもったいない。
- ・ 誰でも参加しやすい料理教室。親子、若い子、男性だけ等グループ分けする。

<人材の活用>

- ・ 核家族が多く、おじいちゃん、おばあちゃんと子ども達のふれあう機会がないので、一緒に地元の料理を作ったり、畑や田んぼで野菜作りをする、学校と地域が連携をして行う企画を!!縦割りではなく他との横のつながりを行政も行う必要がある。
- ・ 若い方々へもう少し食について研修を深める必要がある。高齢者との子育てについて研修の機会をはじめ、食事の作法など大切にしたい。
- ・ 高齢化の進む中、地域内に食育推進ボランティアを中心にした場所を設け、いつでも、自由に話し合う場所があればよい。
- ・ テレビ、広告等よりも身近な方(食生活推進員等)が、地域の集会等で食についての説明をした方がよい。

<学校・保育所等>

- ・ 学校における食育の推進は重要。給食のセンター化より、自校方式の給食で、郷土料理、伝統料理の継承もできる。
- ・ 県産農林水産物を小中学校の給食に、より多く取り入れ、県産品への興味、関心を持ってもらうように導いていく。
- ・ 一番は、子ども達の給食に活用し、栄養教師の授業があること。(家庭科ではない)
- ・ 保育所や学校などで、食育の知識を教えるとともに、実際に野菜などを作って、食べる事への関心を深める。家庭でも、それを行うよう呼びかけると、保護者の意識も高まる。

<地域>

- ・ 学校や地域で、親子や高齢者の方との交流をしながら、郷土料理等を作る機会を設け、その時に、県内の農作物を使用・紹介するとよい。
- ・ 農業祭や産業祭といった地域イベントの開催促進やラーメン王決定戦などで、県産品を使う工夫をしてもらい、特に若い世代にPRする取組が活用の広がりをみせるのでは。
- ・ 学校や地域における親子体験学習。

<家庭>

- ・ 家族の中で食事作りの時間をつくる事。(担当を分担する)忙しいと手っ取り早く、弁当、惣菜に頼るので。
- ・ 地元の味を大切にするのは必要である。(しかし、若い世代は、仕事、育児、家事に追われ、そのような時間を作るのはむずかしい現状)